

漢法苞徳塾資料	No. 105
区分	治療論・鍼法（入門講座）
タイトル	刺鍼原則
著者	八木素萌
作成日	1990.11.23

◎『靈枢』九鍼十二原第1の記述から

a. ツボとは

「～節ノ交 三百六十五会 其ノ要ヲ知ルモノハ 一言ニシテ終キ 其ノ要ヲ知ラザレバ 流散シテ窮ルコト無シ 言ウ所ノ節トハ 神氣ノ遊行シ出入スル所ナリ 皮肉筋骨ニハ非ラザルナリ～」と記述されている。

これは、『ツボというものが本当に判からないと、治療も診察も生理も病理も本当には理解できるものではない。365穴の最も重要な点は、「気」がそこを行き来しました其処で出入りもしている、という事である。必ずしも、解剖学的に定められるとは言えないものである。』こういう思想である。

日本のものも中国のものも古典的な「経穴学」書の、ツボの部位に関する記述は、曖昧な記述が少なくないのは、概ねの位置さえ案内していれば良い、大事なことは「気の遊行している」「気が出入りしている」所を捜し当て探り当てる、指頭感覚や観る眼力にある、と考えられていたに違いないのである。

b. 鍼治療の適応範囲

「～今夫レ五臓ノ疾有ルヤ、譬エバ刺サルレガ猶キナリ 汚ルレガ猶キナリ結ボルレガ猶キナリ 閉ザサルレガ猶キナリ 刺久シキト雖ドモ 猶オ抜クベキガ猶キナリ 汚ノ久シト雖ドモ猶オ雪グベキガ猶キナリ 結ボレノ久シト雖ドモ猶オ解クベキガ猶キナリ 閉ザサレテ久シト雖ドモ猶オ決スベキガ猶キナリ 或ハ言ウ久疾ノ取ルベカラズトハ 其レ説ニハ非ラザルナリ 夫レ善ク鍼ヲ用イル者ハ 刺モ抜クガ猶キナリ 汚モ雪グガ猶キナリ 結ボレモ解クガ猶キナリ 閉モ決スルガ猶キナリ 疾ノ久シト雖ドモ 猶オツクスベキナリ治スベカラズトイウ者ハ 未マダ其ノ術ヲ得ザルナリ～」と『靈枢』九鍼十二原第1の中に記述されている。

c. 刺鍼原則

「～逆イテ之レヲ奪エバ 悪ンゾ虚スル無キヲ得ンヤ 追イテ之レヲ済クレバ 悪ンゾ実スルコト無キヲ得ンヤ 之レヲ迎エ 之レニ随ガイ 意ヲ以テ之ヲ和シテ 鍼道オワヌ 凡ソ鍼ヲ用ウル者ハ 虚スルトキハ之レヲ実セシメ 満セルトキハ之レヲ泄ラシ 宛陳ナルトキハ之レヲ除キ 邪勝ツトキハ之レヲ虚セシム～～」とは『靈枢』九鍼十二原第1の中の重要な記述で、『鍼治療の四大原則』と言われているものである。

◎『靈枢』寿夭剛柔第 6

刺有三變

刺榮→→→出血

刺衛→→→出氣

刺寒痺→→→内熱→a →以火焯之

b →以藥熨之

◎『靈枢』邪氣藏府病形第 4

「～黄帝曰ク 病ノ六變スル者之レヲ刺スコト奈何 岐伯答エテ曰ク 諸ノ急セルモノハ多寒ナリ 緩ノ者ハ多熱ナリ 大ナル者ハ多氣少血ナリ 小ナル者ハ血氣皆少ナシ 滑ナル者ハ陽氣盛ンニシテ微ニ熱有リ 濇ナル者ハ多血少氣ニシテ微ニ寒エ有ルナリ 是ノ故ニ 急セルヲ刺スハ 深ク内レテ久シク之レヲ留メ 緩ナルヲ刺スハ 浅ク内レテ疾ヤカニ鍼ヲ発シテ 以ッテ其ノ熱ヲ去ル 大ナルヲ刺スハ 微ニ其ノ氣ヲ瀉シテ其ノ血ヲ出スコトナカレ 滑ナルモノヲ刺スハ 疾ヤカニ鍼ヲ発シテ浅ク之レヲ内レテ 以ッテ其ノ陽氣ヲ瀉シテ其ノ熱ヲ去ルナリ 濇ナルヲ刺スハ 必ズ其ノ脈ニ中レテ其ノ逆順ニ随イテ久シク之レヲ留ムルナリ 必ズ先ズ按ジテ之レヲ循ラシ 已ニ鍼ヲ発スレバ疾ヤカニ其ノ痛ヲ按ジテソノ血ヲ出サシムルコト無ク以ッテ其ノ脈ヲ和セシム 諸小ノ者ハ 陰陽形氣トモニ不足ナリ鍼ヲ以ッテ取ルコトナカレ 而シテ甘藥ヲ以ッテ調ノウルナリ～」と記述されているが、これは病の場合に体表に診られる変化の、状況の意味と、その場合に応ずる刺法の基本を指示しているものである。後は、五臓に応ずる刺法、十二經に応ずる刺法、痺に対する刺法、九變に応ずる刺法、などの原則的な記述を学べば、あらゆる場合に対応するトータルな刺法の原理的なものが、運用できることになるのである。

『素問』鍼解第 54、『素問』調經論第 62、『素問』離合真邪論第 27、『素問』繆刺論第 63、『素問』刺腰痛第 41、『靈枢』官鍼第 7、『靈枢』終始第 9、『靈枢』熱病第 23 など他に学ぶべし。